

RPHA17 を終えて

大阪大学大学院 工学研究科

環境・エネルギー工学専攻 博士前期課程 2 年

小林 千将

私は、2017 年 8 月 23 日から 8 月 26 に中国の成都市で開催された Reactor Physics Asia 2017 (RPHA17) に参加する機会をいただき、その中で自身の研究テーマについて発表しまた日本のみならず中国・韓国といった他国の学生、研究者の発表を聴いた。

私自身、初めての海外での発表ということもあり、ホテル予約、航空機予約など発表以外の部分で労力を使うことが多かったように感じた。23 日の出発当日、無事に関西空港にてチェックインを済ませ飛行機に乗り込んだ。予定では上海空港で乗り換え成都市に向かうはずであったが、乗り込んだ飛行機がやや遅れたことと、上海で乗り換える飛行機が変更になったことから乗り換え時間が当初の半分程度となってしまう、上海空港で全力疾走して乗り換えることとなってしまった。またもや発表以外に労力を割くこととなってしまったのである。その後は何事もなく無事に目的地である Minya Hotel に到着し、学会前日の夕食会に参加した。私の発表は学会初日の午後であるので、夕食会後に自室にて少し発表練習を行おうと思っていたが、計 6 時間にわたるフライトと上海での全力疾走、乗り換えが間に合わないのではないかとという心労から疲れ果ててしまい、すぐに眠ってしまった。発表前日はかなり慌ただしかったので緊張する暇もなかったが、24 日の発表当日では会場に入り他国の発表等を聴くことで、午後の自身の発表に向けて緊張感が高まっていくのを感じた。

発表当日午後、私は "Advanced Reactor Design and Operation-I" というセッションで発表した。このセッションでは発表が 4 件 (内 2 つが同一人物による発表、1 つが当日キャンセル) ということもあり会場には 7~8 人程度しかいなかったが、それでも参加者から盛んに質問・意見が飛び交う会場であった。その中での発表ということもあり、非常に緊張して自身の発表を迎えたが、幸いなことに、いざ始まってみると冷静になることができ、自身の発表に関しては無難にこなすことができたように思える。しかしながら、質疑応答に関しては、比較的簡単な質問に関しては何とか答えることはできたものの、複雑な質問になると、質問者からの意見・質問が聞き取ることができなかつたり、自身の意見を英語で表現できなかつたり、自身の語学力の無さを痛感した。また他国の発表等を聴いた感想として、他の研究に対する知的好奇心、積極性、そして語学力が自身と比較して非常に高いと感じた。

初日終了後に一緒に学会に参加していた研究室後輩と他大学先生方、学生と一緒に四川料理である火鍋を囲んだ。普段あまり辛いものを口にしない私にとって、この辛さは衝撃的な辛さであった。翌日の聴講は英語と腹痛の両方で苦しむこととなった。

この国際会議において、様々な方との会話を通じ、経済成長と遂げる国または世界に対してエネルギーという面から貢献したいという、他国学生の確固たる意志を知ると同時に、自身の意見を他言語で伝える難しさというものを改めて痛感した。

現在、原子力という分野は国内だけでなく国際的に活躍できる人材が求められているが、今回の発表での経験を糧に、自身に足りない積極性、他の研究に対する好奇心、そして語学力等を高めていき、国内そして国際的に原子力をリードしていけるような人材になれるように、日々精進していきたいと思う。

最後になりますが、国際学会で発表する機会を与えてくださり、また発表準備を進めるにあたり、ご多忙な中、熱心なご指導をしてくださった北田先生、竹田先生に心から感謝いたします。また発表終了後に四川料理である火鍋をご馳走していただいた東京工業大学小原先生、北海道大学千葉先生、東芝木村様、東芝和田様、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



RPHA17の会場となったホテル外観（左）とメイン会場（右上）、および火鍋（右下）